



第18回例会(11月14日)
平成26年11月21日発行

クラブ事務所 岩手県盛岡市菜園1丁目10
川徳デパート内
例 会 場 同上 TEL(651)1111(代)
例 会 日 毎週金曜日12時30分～

会 長 長澤 茂
幹 事 榎山 柱
会 報 古山 明廣
クラブ事務局 TEL(653)5682
FAX(653)5622

Light Up Rotary. 「ロータリーに輝きを」……………ゲイリー C. K. ホアン



ゲスト卓話

前九年合戦・歌問答

岩手県文化財愛護協会 顧問
金野 静一 様

康平五年九月六日。(1062)

この日、源頼義と清原武則の連合軍が、衣川関を攻撃しようと結束していました。

「即日、衣川関を攻めんと欲す」と『陸奥話記』に記しています。

この衣川関も、実際にはどこにあったものかわかりませんが、おおよそ今の中尊寺のある丘陵の上から丘陵の上から衣川へ下りて行く途中の地点ではないかと、いわれております。

金色堂のある丘陵を「関山(かんざん)」と称していますが、それは衣川の関があつたので、「関山中尊寺と称するに至つたものでしょう。

この決戦は「衣川」により清原勢を主とする連合側は大いに貞任軍を破ります。安倍軍は、次第に北方へ押されて沈んで行きます。しかし、この戦いの随所に安倍軍の真の実力が見えてきますが、それでも源氏側はしだいに優勢になります。現在の前沢と衣川の境の坂に「一首坂」と称する所があります。

ここで歌われた源氏と安倍氏の総帥達の「歌問答」があります。戦前の歴史や国語の教科書にもよく載せられておりました。北方へ衣川から落ちて行く安倍貞任と源義家との間にかわされた歌問答です。

衣川から落ちて行く貞任、これを追いかける義家、両者とも馬上の人です。その義家が大声で、しかも和歌の文句の一部で呼びかけます。

衣の館はほころびにけり…これは明らかに和歌の下の文句です。と、逃げる貞任は馬を止め、これまた響きわたる声で上の文句を答えます。

年を経し いとの乱れの苦しさに(貞任)

衣の館はほころびにけり(義家)

この有名な歌問答の末、逃げて行く貞任を義

家は追いかけなかったと言います。

以上は鎌倉時代の「古今著聞集」という本に書かれています。

さて、歌と言えは貞任だけではなく弟宗任(三男)の方も負けてはいません。康平五年九月十七日。安倍氏の最後拠点であった厨川の柵も落ちます。貞任はここで敗死。弟の宗任はいったんは紫波郡の方に逃亡しますが、同志九名と共に自ら出頭して捕らえられます。宗任は、捕らわれ人として都へ連れて行かれます。京都の人々は北国のエビス(蝦夷)が来たこと皆で珍らし気に庭に引き据えられた宗任を指さしながら見物しておりました。

ある若い公家が、「蝦夷」の捕らわれ人だと説明を受けていましたが、ふと思いついたように、宗任の鼻先に、梅の花の小枝を突きつけ、「お前らは、これを何と言うか」と、見下したようにたずねます。陸奥の人と軽べつした質問です。これを聞いた多くの公家たちも、みな興味を持ち、宗任が何と答えるかを見守っていました。宗任はその公家の顔を静かに見返しながら、次のように答えました。

「わが国の梅の花とは見たれども

大宮人は何と言うらん」

大宮人は朝廷に仕えている公家達を尊称した語です。宗任のこの歌による答えには一同大いに驚きました。そしてこのような失礼な問いを發した公家は大いに恥じ入り、公衆の後方に隠れてしまったそうです。

それから五百年後の安土・桃山時代のこと。豊臣秀吉が朝鮮半島に出兵し、内外共に騒々しい時代のときです。奥羽の大名の中でも最も大きく、しかも若かった伊達政宗の逸話です。

秀吉の命により政宗も肥前の名護屋に向かい

ます。京都を通る時は朝廷に対して礼を尽くします。いわゆる「表敬訪問」を行います。

皇居に赴くために寄り道をするようになりますが、その案内を中年の公家がします。政宗は、三步下がってこれに従って行きます。時、あたかも弥生（やよい）の季節。桜の花が文字通り満開でした。満開の桜並木の道を、公家が先にたち政宗がその後から歩んでいました。途中、その公家は、政宗の様子を伺いながら「何だ、まだ若い、これで六十二万石か、少々からかってやれ」とでも思ったのでしょうか。いきなり、立ち止まって、頭上の桜を指さし、「政宗公、この桜の心や如何に」と問うたのです。突然の動きであり、質問でもありました。政宗は一瞬頭に來るものがあったのかも知れません。彼は、五・七・五調で次のように応じました。

「大宮人、梅にも懲りずに桜かな」

梅は五百年前、安倍宗任が「わが国の梅の花とは…」と答えました。そこで、政宗はこれに桜を付して「大宮人」を嘲笑し皮肉ったわけです。

宗任と言ひ、政宗と言ひ、まことに小気味良さを持ったすごい人たちだと思います。

「前九年合戦」にかかわる和歌や詩というこ

とになれば、源の義家と安倍貞任の歌問答に触れなければなりません。

衣川関の戦いは、安倍氏側は必死に防衛しますが、源氏に協力した出羽三郡の雄、清原武則軍の優勢な攻撃、安倍氏は多くのすぐれた部下を失います。頼時の死後次男の貞任が指揮を取ることになります。

しかし、安倍勢はしだいに押され、北を日ざして敗走することになります。衣川と前沢を結ぶ坂道がありますが、この坂を「一首坂」と呼ぶようになりました。すなわち、味方の不利を北方で盛り返し、何回でも源氏との戦いを試みようとした貞任は、この坂を必死で北上します。これを追って來た源義家は、呼びかけます。「衣の館はほころびにけり」と、下の句をあげる。これを耳にした貞任は馬を止め、「年を経し糸の乱れの苦しさに」と上の句をつけました。義家はこれを耳にして貞任を追いかけるのを中止したのでした。

江戸時代になり、いわゆる「詠史狂歌・川柳」の類が盛んになりますが、上の義家、貞任の歌問答を次のような句で、まとめています。

「衣川 敵と味方で一首でき」

例会報告

第 18 回例会
平成 26 年 11 月 14 日(金)

於 川徳 12時30分 開会点鐘

- ・司会 長澤 茂会長
- ・ソング 我らの生業
- ・四つのテスト斉唱
- ・会長報告 長澤 茂会長
- ・ゲスト 金野静一様 (岩手県文化

財愛護協会 顧問)

- ・皆出席バッチ 熊谷祐三・福田莊介君 (29年)。
 - ・入会祝 福田莊介・熊谷祐三君。
 - ・誕生祝 長野隆行・坂本広行君。
 - ・結婚祝 小川 惇・川村宗生君。
 - ・幹事報告 樋山 桂幹事
- 終了後臨時理事会開催

【ニコニコ BOX】

- ◆長澤 茂君…今日は平成26年度の

東北厚生局適時調査を朝から受けております。調査は夕方まで続くと思いますが、多分何も無く無事に終える事が出来るだろうと思っています。終わった時のニコニコの練習をしたいと思います。

●メークアップ

盛岡北R.C.=佐藤(善)君。盛岡西R.C.=勝部君。盛岡東R.C.=吉田(幸)君。クラブ委員会=佐藤(義)・吉田(育)君。

※訂正とお詫び…第 15 回例会号の例会報告欄において「於 川徳」となっておりますが、「於 徳清倉庫」の間違いでした。訂正の上お詫び申し上げます。

出席報告 □ 会員数 /72 名 □ 出席数 /41 名 □ 出席率 /59.42% □ 前回回修正出席率 /78.12%

プログラムの
お知らせ

・ 11 月 21 日(金) 新入会員卓話 荻野忠良君

28 日(金) 米山奨学生卓話 カムチョンブー スリーポンさん

●本号編集担当 / 川村 宗生

●次号編集担当 / 星 克彦